

令和5年度 学校経営報告

東京都立神津高等学校
校長 中間 均

1 今年度の取組と自己評価

- (1) 評価資料 ①学校運営連絡協議会による学校評価アンケート
②生徒による授業評価
③授業公開時における参観者のアンケート
④各分掌主任の意見
- (2) 重点目標と方策の自己評価

取 組	自 己 評 価
<p>1 学習指導</p> <p>①学校評価アンケート結果等を基に生徒の実態と課題を把握し、適切で効果的な教科指導法の改善を図る。</p> <p>②習熟度別授業、少人数編成授業及びTTを活用し、生徒の学力向上を図る。</p> <p>③オンライン授業を充実させ、災害時でも生徒の学習活動を保障する。</p> <p>④教科会や校内研修会（授業評価等）及び教員の相互授業参観を活用し、分かる授業を展開する。</p> <p>⑤長期休業中を活用し、東京都教職員研修センターが開催する教科等・教育課題研修等に参加し、教科指導力の向上を図る。</p> <p>⑥外部模試及び定期考査・実力テスト等を活用し、生徒の学力を把握することで3年間を見通した学習計画を策定し、個に対応した学習指導方法の計画的な改善を図る。</p> <p>⑦神チャレやサタデー神チャレにより、基礎学力の定着と学力の向上を図り、進路実現を意識して主体的な学習を推進する。</p> <p>2 生活指導・進路指導</p> <p>①安全教育を実施し、健康と安全保持の充実を図ると共に事故防止に努める。</p>	<p>1 学習指導</p> <p>①生徒の進路希望の状況を確認して、各教科で指導方法について検討し対話的に授業改善に努めることができた。</p> <p>②本校の特徴である少人数授業及びTTを実施し、学力向上や進路実現に繋げることができた。</p> <p>③1学期に都教委より指示のあった「オンライン学習デー」を実施し、全教員・全校生徒がオンライン授業を行えるスキルを身に付けた。</p> <p>④校内研究授業や研究協議会を開き、学校として指導と評価の一体化に対する共通理解を高めた。また、中学校と連携し、年間を通して中高の相互授業参観を実施した。</p> <p>⑤教職員研修センターの専門性向上研修へは7名が、民間の指導力向上研修へは1名が参加し、教科指導力の向上を図った。</p> <p>⑥ケース会議を実施し、各教科からの成績経過分析の報告及び今後の指導計画を検討共有し、生徒への学習指導の充実を図った。ICTによる学習状況調査しそれを活用した他、全教員による指導を粘り強く実施した。</p> <p>⑦神チャレ（放課後学習）週2回、S神チャレ（定期考査対策）年6回、SS神チャレ（大学受験対策）年7回、検定試験対策補習、補講等を実施し、生徒が意義を見出し主体的に参加した。</p> <p>2 生活指導・進路指導</p> <p>①基本的な生活習慣が確立できている生徒もいる一方で、生活習慣が乱れ、学校生活に支障の出ている生徒もいる。家庭、地域やスクールカウンセラーなどの外部機関と連携を密にし、個別の支援計画を策定するなど基本的な生活習慣の確立及び規範意識の向上を図るため、計画的・組織的な指導・支援を続けることができた。</p>

②部活動の兼部を推奨し、部活動の活性化と体力の向上を図る。

③部活動等と学習活動との両立を図り、社会の一員としてよりよい生活を築こうとする態度を育てる。

④3年間を見通したキャリア教育計画を策定し、望ましい勤労観・職業観及び社会性や協調性を育成することで進路実現を図る。

⑤進学サタデー神チャレ（SS神チャレ）により、進学者の学習への取組の意識を向上させる。

3 学校経営

①校務分掌の取組目標と課題を学校全体で共有し、全教職員が一致して課題解決に取り組むとともに、組織対応力を向上させる。

②自律経営推進予算の編成と計画的・効率的執行及び施設管理を行い、教育活動の充実を図る。

③教職員が相互に信頼し、協力し合える職場環境の構築を推進する。

④校内研修等を通して、いじめや体罰等の服務事故の根絶を目指す。

⑤オリンピック・パラリンピック東京大会のレガシーを、各教科及び特別活動の中で学ぶとともに、スポーツが平和の礎であることを理解させる。

⑥特別な支援を要する生徒の対応として、個別支援計画を策定し対応する。

⑦管理職が教職員の在校時間を適切に把握し、必要に応じて指導・助言等を行うことで、全ての教職員に対し、在校時間に対する自己管理意識

②部活動の兼部者が増えると同時に活発な活動が多く場面で見ることができ、体力の向上が図れた。今後は地域住民と連携する機会をさらに増やし、地域スポーツを活性化できるような取組を図る。

③学習活動を基本として、部活動に参加し両立していこうとする生徒が増えた。部活動を通して生徒が主体的に意見を出し合い、教員との調整を図っている場面が多く見られ、改めて教育活動の中での部活動の効果を認識することができた。

④生き方について考える講演会の実施や個人面談を充実させたことで、今後のキャリアについて、選択科目も含めて理解する契機となった。

⑤SS神チャレを実施したことで、大学受験に向けて主体的に学ぶ姿勢の醸成が図れ、主体的に取り組む姿勢を育むことができた。

3 学校経営

①企画調整会議での情報共有に加え、教務部・生活指導部・進路指導部のそれぞれが校内研修を実施することで、取組目標と課題の共有が十分にできている。それぞれの課題を解決するための校内体制構築を、引き続き推進する。

②毎日の定例打合せにより、経営企画室の経営参画を促した。予算編成指針に基づく予算の執行を実施するとともに、安全で安心な施設・設備の維持管理を行い、教育活動の充実を図ることができた。

③風通しの良い職場環境づくりに努め、教職員間が良い雰囲気の中、協力、連携し業務を遂行した。

④いじめ防止対策研修を年に3回実施し、いじめアンケートでいじめ報告0であった。また、服務事故防止研修を年に2回実施し、服務事故発生件数0であった。

⑤保健体育の授業で、オリンピック・パラリンピックについて学んだほか、日本ブラインドサッカー協会によるブラインドサッカー体験を通して、障害者理解、コミュニケーションの大切さ、スポーツが果たす役割を学ぶことができた。

⑥個別支援計画の書面こそ作成していないが、生徒の特性について校内で情報共有し、個々の学習指導や生活指導、進路指導に反映させ、卒業認定や進路実現へと結びつけることができた。

⑦2学期以降は前年度と比べて在校時間が減少している。残業時間の多い教員は教材開発に力

の醸成を図る。

4 特別活動・部活動

- ①地域に根ざした「総合的な探究の時間」や環境教育（地域美化活動）を実施するとともに、学校施設開放を積極的に行い、地域に開かれた学校づくりを行う。
- ②地域の教育力を部活動等に活用し、恒常的な活動を目指す。
- ③東京都及び神津島村と連携し、防災教育の充実に努める。
- ④黒潮祭等の学校行事や村民運動会等の村の行事を成功させる。
- ⑤各授業の中で、読書活動の推進を図ることで、未読率を下げる。
- ⑥子どもの基礎体力向上方針に沿って、生徒の体力を向上させる。

を入れている傾向にあるため、既存の教材や学習コンテンツの活用などICTの恩恵を受けられるような教材活用の方法を助言する。

4 特別活動・部活動

- ①「総合的な探究の時間」で、年間を通して地域と連携した活動を行うことができた。さらに、ビーチクリーニングなどの地域美化活動を実施した。学校施設開放については、10団体、年間450回の利用があった。
- ②部活動において地域の開放事業や中学合同部活動に参加する生徒が増加した。教員だけでは学べない新しい知識を得るとともに校外の競技者との交流は新鮮であり部活動のさらなる活性化に繋がった。
- ③避難所設営・生活体験訓練も神津島村福祉課の協力のもと円滑に進行できる訓練を実施できた。また、神津島村役場による村内の土砂災害、応急手当についての講話をダイビング協会と連携することで地域の実体験に沿った災害を生徒が知ることができた。
- ④各クラス、部活動団体が工夫を凝らした催しを考え、黒潮祭実行委員会を中心に黒潮祭を成功させた。コロナ後においては初めての飲食提供も再会できた。村民運動会については生徒が誘導、放送、招集などの主要な役割を担い、円滑な運営に大きく貢献した。
- ⑤ICTを活用した調査で読書をする習慣がないことがわかった。各授業やリーディング神チャレを通して、読書を習慣化させていく。
- ⑥授業や部活動を通して、体力についての必要性や重要性について啓発を図った。村民運動会は、スポーツの振興を図る契機となった。

「数値目標」達成状況

	項目	数値目標	結果
学習指導	授業満足度	90%以上	96%
	日本漢字能力検定 実用数学技能検定 実用英語技能検定 パソコン検定 世界遺産検定	合格者の合計 15人以上	漢検 1人 数検 0人 英検 4人 P研 0人 世検 0人
	長期休業中の補習・補講	20講座以上	38講座
生活指導	生活指導満足度	80%以上	84%
	遅刻回数	一日平均 1.3人以下	0.75人
	服装違反での再登校指導者	0人	0人
	飲酒・喫煙、暴言等での指導者	0人	0人
	原級留置及び中途退学者	0人	0人
進路指導	進路指導満足度	90%以上	95%
	国公立大学合格者	1人	2人
	第一希望への進学・就職	100%	89%
	進路未決定者	0%	6%
その他	部活動加入率	100%	91%
	中学生体験授業	1回以上	1回
	小・中学校への出張授業	2回以上	0回（コロナ後未実施）
	授業公開での来校者数	3日間合計 100人以上	93人
	ホームページ更新回数	月平均 5回以上	10回
	学校施設開放	開放回数 300回 利用者延べ人数 3,000人	開放回数 450回 利用者延べ人数 7,451人 (R6.1.21現在)